

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2024年度	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		子ども教育学科		
科目名称	経済学					授業形態	講義		
科目コード	120720	単位数	2単位	配当学年	1	実務経験教員		アクティブ ラーニング	
担当教員名	姜 暲求							ICT活 用	○
授業概要	<p>経済問題は私たちの生活において最も大きな問題の一つである。身近なこととして大学へ進学するか、しないか、アルバイトするか、しないか、卒業してどこに就職するかなども経済問題である。また、国全体にとって如何に経済成長を促すか、失業率とインフレーションを抑えるか、如何に貿易収支を保つかなどは大きな政策課題である。このように私たちの生活と密接に関連している経済学を、社会の一員として理解することは重要である。授業では標準的な経済学のテキストに沿ってマクロ経済学を学び、実際のデータで現実を理解する。</p>								
関連する科目									
授業の進め方 と方法	<p>授業では基本的な経済理論を、標準的なテキストに沿って学びながら、国内外のデータを用いて、理論と現実を照らしあい、経済の仕組みを理解していく。</p>								
授業計画 【第1回】	<p>第1章 経済学の十大原理 経済学の中心的な考え方（十大原理）を紹介し、その中で幾つかの重要な概念を学ぶ。</p>								
授業計画 【第2回】	<p>第2章 経済学者らしく考える 経済学者は経済現象をモデルで捉える。この章では経済循環図（circular flow diagram）、生産可能性フロンティア（production possibility frontier）について学ぶ。また、マクロ経済学とミクロ経済学の違い、実証分析と規範分析の違いについて学ぶ。</p>								
授業計画 【第3回】	<p>第3章 相互依存と交易（貿易）からの利益 絶対優位と比較優位について学ぶ。また、比較優位に基づく特化がもたらす利益について学ぶ。</p>								
授業計画 【第4回】	<p>第4章 市場における需要と供給の作用 財・サービス市場における価格と需要・供給との関係を学ぶ。また、市場の均衡と均衡の変化について学ぶ。</p>								
授業計画 【第5回】	<p>第5章 国民所得の測定 この章からマクロ経済学（原著のCHAPTER 23）に移る。国民所得を図る最も代表的な指標である国内総生産（Gross Domestic Product）とGDP Deflatorについて学ぶ。内閣府のウェブサイトを用いて日本のGDP構成及び変化を確認する。また、世銀（world bank）、our world in dataウェブサイトを用いて国際比較する。</p>								
授業計画 【第6回】	<p>第6章 生計費の測定 消費者物価指数（Consumer Price Index）の測定及び問題点について学ぶ。また、ラスパイレス（Laspeyres）指数とパーシェ（Paasche）指数の違い、GDP deflatorとCPIの違いを学ぶ。総務省ウェブサイトを用いて、品目間・地域間のCPIを比較してみる。世銀（world bank）ウェブサイトを用いて時系列的に国際比較してみる。</p>								
授業計画 【第7回】	<p>第7章 生産と成長 経済成長において長期的労働生産性の向上が大事であること、そのための公共政策について学ぶ。our world in dataウェブサイトを用いて長期経済成長を国際比較してみる。国連（United Nations）の人間開発指数（Human Development Index）や世銀（world bank）の人的資本指数（Human Capital Index）と一人当たりGDPを比較してみる。</p>								
授業計画 【第8回】	<p>第8章 貯蓄、投資と金融システム 貯蓄・投資における金融機関（金融市場・金融仲介機関）の役割、政府財政が貸付資金市場に与える影響について学ぶ。財務省のウェブサイトを用いて日本の財政と税について考えてみる。</p> <p>第9章 ファイナンスの基本的な分析手法 現在の資産を如何に配分して、将来の価値を最大化するか。現在と将来の間に時間価値とリスクが存在する。時間価値の評価とリスクの緩和について学ぶ。</p>								
授業計画 【第9回】	<p>第10章 失業 失業の定義及び失業率の測定、その問題点について学ぶ。また、最低賃金法、労働組合の団体交渉について学ぶ。総務省のウェブサイトを用いて人口構成別失業を考察してみる。US Bureau of Labor Statisticsのウェブサイトを用いて人種間・教育水準間の失業差を考えてみる。</p>								
授業計画 【第10回】	<p>第11章 貨幣システム 貨幣の流動性、中央銀行制度、準備銀行制度、中央銀行の貨幣供給量調整について学ぶ。</p> <p>第12章 貨幣量の成長とインフレーション 貨幣の供給量と物価の関係、急なインフレーションの費用（悪影響）について学ぶ。</p>								
授業計画 【第11回】	<p>第13章 開放マクロ経済学：基本概念 財サービスの輸出・輸入、資本の流出・流入、為替レート（名目及び実質）、購買力平価について学ぶ。</p>								

授業計画【第12回】	第14章 開放経済のマクロ経済理論 貸付資金市場均衡と為替市場均衡の関係、財政赤字・貿易政策・キャピタルフライト (capital flight) の影響について学ぶ。
授業計画【第13回】	第15章 総需要と総供給 総需要と総供給を短期と長期に分けて、短期の経済変動について学ぶ。
授業計画【第14回】	第16章 総需要に対する金融・財政政策の影響 政府の金融・財政政策で総需要の増減を緩和するメカニズムについて学ぶ。
授業計画【第15回】	授業のまとめ
授業の到達目標	経済の仕組みや経済関連ニュースが理解でき、日常生活や仕事に必要な経済知識を持つこと。
学位授与の方針 (DP) との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)
授業時間外学習【予習】	新聞の経済関連ニュースを読む。総務省統計局ウェブサイト (https://www.stat.go.jp/data/index.html) や our world in data のウェブサイト (https://ourworldindata.org) などで授業に関連するデータを検索してみる。
授業時間外学習【復習】	新聞の経済関連ニュースを読む。総務省統計局ウェブサイト (https://www.stat.go.jp/data/index.html) や our world in data のウェブサイト (https://ourworldindata.org) などで授業に関連するデータを検索してみる。
課題に対するフィードバック	小テスト、レポート、期末テスト等は解説する。
評価方法・基準	授業中の評価 (小テスト、レポート) : 50%、期末テスト : 50%
テキスト	N グレゴリー・マンキュー 『マンキュー経済学Ⅱ：マクロ編<第4版>』, 東洋経済新報社、2019年9月。 (テキストは N. Gregory Mankiw, Principles of Economics, 8th edition の和訳であるが、原著はネット上にPDFファイルとして公開されている)
参考書	1. 金子貞吉ほか 『導入日本経済』 学文社、2008。 2. The Core Team, THE ECONOMY: Economics for a changing world, https://www.core-econ.org (この本はネット上に公開されている)
備考	パソコンまたはタブレットを持参した方が望ましい。